

C

12

五月十七日 木曜日 風雨

外を見るととても風が吹いてゐた。出る頃には、
つぱつ雨が降り出して来た。だがひどい風のため
は、~~傘~~をさす事が出来なかつた。私はかっぱを着て
行った。午前中は普通どまりのお授業だつた。午
後のいろいろな練習をしたりして楽しく待つてゐた。
発表會だ。私は班長なので司會者になつた。午
丸の二年生の對話はとてもかはいらしくて面白
つた。人数が少ないうで発表會も簡單なもの
つた。外ではまだ雨が降り續き、さういふ中を
らしてゐた。



五月十八日 金曜日 雨の曇

今日は静かだが空にはすみをぬつたやうな曇りがか
りどんよりとしてゐる。いまにも雨が降りさうだが
お宮の曲りがどのへんでよその方が**金**をさして
おちれるのに氣づいて急いで去る。時間目
は休保でお部屋の上めだしたので高田先生につれら
れて城のあとを見に行つた。どんなにすばらしいの
かと思つて石垣の中へはいると草が一ぱい生え茂り
その中に一つの**石碑**がさびしうに立つてゐた。泉
は頭につかへさうな小い家だが中はきつんとして
いれにだつた。雨が降つてきたから歸りませう。と
言ひかへてふと氣がついておめかか糸のやうな
細い雨が私達の頭や肩に降りて來てゐた。女學校
の校門をはいらうとする。そのそばはさんざんづ
づりしたやうな顔でいぢまふ山で中人はいつて來る
ので私もつられて急いでかけた。馬車といふので
兵隊さんが乗つていらつしやるのかと思つて見や
うとするとあはれ馬がすごいスピードで走つてきた

私は又あふさりをした。そして二度門のところ
へ行つたがもう見えなかつた。體操教室へ行く
と三部六年も追つかれられたといふのでまづで
雀のすのやうにしやべつてゐた。



五月十九日 土曜日 曇

四時間目は自習なので日記でも書かうと思
つてゐたが國史がとてもおくられてゐるので
國史をすることになつた。始めなうと思つて

席にすわるとうすきみの悪いさいれんがけたに
ましく鳴りにした。あまりきみが悪いつたので
何だか胸がへんななつた。急いで外へふた。電
信柱毎に走つたり歩いたりして、取つてきた。
そしてちやんと頭布をすぐかぶれるやうに用
意して授業した。



五月二十日 日曜日 晴

宿舎へ歸つていろいろのことをしたのはあとで
古波さんのお家の防空壕のお手傳ひをし

た。前にお地だったところに小さい石を入れるの
玄關の方から運ぶお手傳ひだ。みみずがいつぱ
い出てきた。どんどん運んであるうちにかにが
てきた。私はそのかにを川のそばにおいて入
りだした。一生懸命にやつたのですぐに書食の時
間がきてしまった。

五月二十一日 月曜日 晴



今日も山菜取りに桑山へ行つた。きゆうな
ちをよちよちのぼりある見はらしのより
ころから、宮地先生が頂上かどうかそこへ行つて
みて來るとおつしやつた。私もついて行つた。
細い落ちこつた道を登る。歩くのが
がくずくあがつて行つた。思つたとはり頂上だ
た。一ばんのりーとても嬉しかった。萬歳思は
ず心の中で叫んだ。皆がわづらつて少し休んだ。

から、楽しくお食事をした。今日は始めてだし
面白いのでもちつともつかれなり。歸りはゆんど
でつるつるすべるまゆうな道を元氣よく學
校に向かった。

五月二十三日 火曜日

午後、体操教室でチブスの**豫**防注射をするこ
になつてゐる。さういふちよつといやな事はすぐ
きでしまつた。びくびくしてゐた。やつていただ
にちつとも痛くなかつた。知らぬまにすんでお
た。だが少しふくれであとで痛くなつてきたので
生懸命でもんだ。



五月二十四日 水曜日

今日の音楽は、男もいっしょだった。日本海海戦
をした。最初ハーモニカでたしよに加藤先生がお
歌ひになつたあとをうけて歌つたり、ききよえじやく
じやくと、すをたたきながら歌つたりした。男の
子は、聲をかわして歌つてゐるのでおかしくなつ
てしまつた。

五月二十四日 木曜日 晴

今日は急に晴れたので、立野ヶ原へおべんたうも
持たずに午前中、わらび取りに行く事になつた。
いつもは少ししか取れないのに今日は、自分の袋に
あふれるほど取つた。暑い中で、元氣よく一ぱい取つ
た。昼食は、竹の子御飯でおなごがすいてゐたの
で、おなごとおいしかつた。

五月二十五日 金曜日

お祓縫の時間になつた。急いで用意して、かた紙
を取つてゐると、密地先生が有賀先生に「六年を少
しかして、いかにとおつたので、二年六年の八人

が行く事になつた。何かと思つたら、お洗濯だつた。二回づつゆすいだ。にらびつにはけつエッだつた。が、たちまちのうちに洗へた。雪地先生は犬へんきんでいっしやつたので、私も嬉しくなつた。

五月二十六日 土曜日

午前中は福光の学校の発表會を見た。午後三時頃から(黒石)寮で映畫があつた。天隊さん方の戦場の場面もあり、あつた。あ、お友達もぜつたり、ぬがまきけ言はないと、こまでも、がんばりとばすも、ど、かた、く覺悟した。最後の漫畫は、勇し、とて、も面白くて、笑聲をあげてしまつた。

五月二十七日 日曜日

今日は投擲大會である。負けたら、二部六年の恥がある。戦つた時は、一生懸命になり、すぶて、すぶかり、体が、かたくなつた。ま、二回、目も勝つた。思ひも、よら、ない、け、と、だ、つ、た。嬉しく、と、び、あ、び、つ、て、高、田、先生、の、と、こ、ろ、へ、か、け、つ、た。い、ま、は、決、戦、こ、れ、で、勝、て、ば、優、勝、だ、の、だ。みんな、心、を、こ、つ、た、し、た。

二回目は勝つた。二回目、これこそ決戦の大戦だ。始めのうちには、入へん勝つてゐたのだ。が、最後、で、みんな、ば、た、ば、た、と、外、へ、出、て、し、ま、つ、た。合計の數で、負けたのだ。を、や、し、く、て、し、せ、ん、と、涙、が、出、て、し、ま、つ、た。少、し、た、つ、て、み、ん、な、泣、き、な、が、ら、う、け、ら、笑、つ、て、し、ま、つ、た。

五月二十八日 月曜日

今日も立野ヶ原へ、わらびを取りに行々事は、なつた。訓練所まで行く。と、入、滑、空、機、で、練習、し、ま、つ、た。あ、た、こ、の、間、は、地、上、滑、走、を、や、つ、て、あ、た、が、ま、う、て、高、く、飛、べ、る、や、う、に、な、つ、て、い、ら、つ、し、や、つ、た。あ、あ、あ、ん、な、に、滑、水、流、し、て、朝、か、ら、晩、ま、で、訓練、し、て、あ、の、方、達、も、特、攻、隊、と、な、る、の、か、し、ら、あ、の、こ、思、ひ、な、が、ら、見、て、あ、た、岩、丸、先生、も、一、べ、ん、地、上、滑、走、を、行、つ、た。皆、先生、が、お、や、り、に、な、つ、た、の、で、わ、あ、わ、あ、い、つ、て、お、た、し、ば、ら、く、見、學、し、て、ゐ、た。それ、から、一、生、懸、命、に、取、り、出、し、た。一、足、く、足、に、よ、く、氣、を、つ、け、て、取、つ、た。今日、も、一、ぱ、い、取、れ、た。



五月二十九日 火曜日

今日の理科の時間は何をやるのかと二號室で待ちかまへてゐた。先生がはいつていらつしやつた。今日は石が出来たのはどうしてかといふ事だつた。始め地球がどうなつてゐるとかといふのか始まつた。星は百年前の光を今やつと送つて來たと言ふ事を聞いて驚いてしまつた。一時間さういふお話をすました。とても面白かつた。

五月三十日 水曜日

午後から立野ヶ原に向かつた。

お計は立野ヶ原に穴を掘つて、かまどを作つて、たいた。全部の組で大きなわを作つてお食事をした。とてもおいしかつた。寶貝の神様になつた先生がかくしていらつしやる間、火のまはりで音楽會をした。みんなとてもお上手だつた。

真中へ棒をおいてたはれた方の人や事にした。いつあたるかわからなは愉快なものだつた。歸り蛙の聲につつまれながら道を歩いてゐると

たんばのはしつこにはつと光るものがあつた。けたらしい。それを見た時、お兄様のいらつしやつたころを思ひだした。

五月三十一日 木曜日

よく晴れてゐるので午前中お洗濯をすることになつた。お計はけけつでした。一生懸命でござし流つた。最後に川でゆすいだ。二階に干していたお計。お日様は氣元よく照らして下さつた。川で足を洗つてゐると場年さんが靴下と云ふので見ると靴下が波にこそはれて流れて行く。まゐるを急いでまくりあげて川へはいつて取つてあげた。何だか自分も流れにこそはれて行つてしまふやうな氣がした。

六月一日 金曜日 晴

今日も山菜取りに山へ行くことになつた。とても嬉しかつた。お日様はあひかはらぶにこはことばがらかにしてゐる。全部の人がそろつてすげがををかぶつて行つた。今日もさうなうきやうな

坂道だった。この間行つた桑山より高いところへ行つた。日本の平野何とも言へないほど美しく見えた。お食事がすんでから竹のうばい出てるおけみだいなところへ行つて、わらびをさがした。

六月 二日 土曜日

今日はしとしと雨が降つてゐた。必勝お餅つきといふめづらしい事があるからし。

午前中、とこ屋さんへ行つて待つてゐる間あみみのをしておいた。夜、大すきなあんころ餅をいただいた。

六月 三日 日曜日

朝食がすんで、白い下着になつて外へ出た。

今日は、とても風がひどい。寒いので、みんなでこころをしておんだ。をかしくておなかのさけるほど笑つてしまつた。しまひには、十年生まではいつてきて、とても長くなつてしまつた。笑つたり走つたりしてゐるうちにへとへとになつてしまつた。とても面白かつた。

六月 四日 月曜日 晴

午前中授業は三時間だった。

夜のお食事も大へん楽しかつた。おけにお餅がはいつてゐてとてもおいしかつた。

今日の音楽會はこの間より、^も面白かつた。實は、かめになつた時ばあーと走つて行つた。おけ、いなり、いろいろなところを、手でめくつておると、ふと書いた紙があつた。もつとさがさうと一生懸命にさがしたが、もうとれなかつた。二部六年は、七枚取れた。とても嬉しかつた。歸り道、今日の夜間、実習の事を話しながら歸つた。

六月 五日 火曜日 晴

午前中、休養かと思つたら、作日の感想文を書きこむことになつた。

すんでから靴下をあらう。もうすぐ出来るので、とても嬉しかつた。朝、あんなに曇つておまけに雨まで少し降つて、おたのには、すっかりお大氣になつてしまつた。

六月六日

水曜日

曇り晴

けさは敷布を洗ふのでいつもより早く起きた。空は雲がすばいひらがたつて少しあやしい木候だった。おはげけつて相良さんといつしよに洗った。雨が降りさうなので蛙が喜んで鳴いてゐる。ばらとこしやくやくのつげみぐふつくらふしていまにもおはれしさうだ。傘を持って學校に行きたら晴れてきてしまった。午後終りの人の敷布を洗ひに来た時はもうしやくやくの花はすつすりびらいてお水の色を美しく輝かせてゐた。

繪がうまい。

漢字は正しくみえ

なさい

日記の書き方も大分

おもしろい。まきく

よくなう様に努力しよう

六月七日

木曜日

雨

ふとんを積みあげておちよつと外を見ると雨が降つて植物は喜んで雨を浴びてゐた。



朝會がすんですぐ授業が始つた。修身の本を勉強したあとで先生が日記についてひひようして下さった。そしてふ葉さんの日記を読んで下さった。あまりお上手なので感心してしまつた。いつも、目の

越し方を一生懸命に努力してゐるのだがまだすつかり出来てゐないのが残念で仕方なかつた。午後になつて

も雨はこつも降り

やまずいっそう

しく降つて、そこ

ら平太にたんばかりだった。

六月八日

金曜日(入昭幸敷日)

雨

今日も相變らずの降つたりやんだり

降りである。お食事ぐすんでから修身の本を開いた。これから朝會前にならず読むことにきめた。歴史の時宮地先生が織田信長などのことを

くけしく教へて下さつた。とても面白かつた。自習の時算数のふくしゅうを一生懸命でやつ



たがしき水はかつた。午後二生懸命で慰問文を書いた。雨はまだまだ降りやまないう。かけらが雨にぬらされて光ってる。このぶんでは明日も雨になりさうだ。

六月九日 土曜日 雨

空はどんよりと雲りかつもと

同じ顔を見せ

てゐた。見えないう位の糸のやうなきり雨が落ちて

くる。午前中は普通どほりのお授業であつた。だん

にんと外が明かるくなり心も自然とつれられて行く

はがらかなお日様が雲の間から顔を出してゐた。

とても嬉しかった。お裁縫につかふりを忘れて困

つてゐると自習でなつぱを洗ふことになつた。やれ

やれ。洗つてゐると象に

似たところの白菜の

味が急に頭に浮

かびあがつて

たべたくなつ

てしまつた。



六月十一日 (日)

晴



時の記念日

学校に着きこくばんを見ると大きく時を守れと

りっぱに書いてある。時の記念日だつた。この時始

めて氣がついた。小栗取り、あまり行きたくなかつ

た。でも少しでも太く取ればそれだけ食糧増

産となり日本が勝つのだ。しつかりがんばらう。急に心

が明かるくなり元氣一っぱい。早く取りたくらつて手

がむづむづする。立野原に行くところだ。さうした人

倍を取つてむんになりたり。目を皿のやうにあげ

て一足毎に氣をつけた。お食事が高のところでは

たいたのでもともに見はらしがよく氣持ひばりの

歌が聲高く美しく聞えるばかりだつた。

六月十一日 (月) 曇

今日は少し薄墨な流したやうな雲がかつてゐたが、

休養の今日お洗濯をしてしまはなければいつ出来る

かわかならうので午前中に急いで洗つてしまつた。

午後歸つてきた時もうふとんのおぼひはかわりてゐ

た。ふとんを引き出し一生懸命でづけてゐたがだん

だんとあきてくるしつかれてきて手は石のやうに堅く
なり思ふやうにやかばい。途中でやめる事も出来ず
戦地へ行つてゐるお兄様などの事を思ひじみづう
強くめひたてた。今時間にもお友達達は時間の
にっのが速いと言つてゐるが私だけは反対だ。その
あとでかばんをひいた。自分でなほせに明日が
ふしよへる嬉し

六月十三日

(水) 雨

曲島さんと呼

ばれてはつと

した。あたりは薄暗い。



今日は雨降りであ

る。お庭の石が雨にぬらされて光つてゐる。一日中

部屋生きた。朝お母様にお葉書を書いた。自分

の頭にお母様が浮かびわりあひすらすると書けた。

今日の授業は四時間で終つて嬉しかった。たゆみつて

たゆみつて時計はかじにらんでおた。夕方太島さん

のお母様が曲會にゆつしやつたね。自分も曲會

に來たやうに嬉しかった。

六月十三日

水曜日 雨

今日もあひ變

今度はかば

ものがあ

前と違つて

二十倍も樂

話が面白いので

がある。今までぬけたりして今日は冬しぶりなので

嬉しかった。一生懸命でつた。早く縫ひたい。急

げ急げ。

六月十四日

木曜日 雨の晴

相

目がさめた時は合變らず部屋は暗く雨降り

響はふゆくわい顔をしてゐる。強が我がせとば

り大聲出してゐる。でも雨が降らなければたべもの

が來ない。今日は久しぶりに私のすきなお習字が

ある。一生懸命に墨をすった。書いてゐるとお家であ

くまでお父様にお話しさされ上手に書けるやうに書



だ。國史は宮地先生の

大すきだ。今日はお裁縫

の

ので

りふ

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

る。

清

A drawing of a cage with vertical bars. Inside the cage, a person's legs and feet are visible, suggesting they are confined within. The drawing is done in a simple, sketchy style with some color shading.

1. 三月

今日は、お大氣になりさうな雨になりさうな變な天候だつた。行單の用意をして學校に行つた。お耕當をさげて立野ヶ原に向かつた。歌もいつの間にかやんでゑ葉々ムと思ひ出詔などをしてゐる時は、もうそばに吹き流しがなびいておたゝ生懸命に努力しながら食糧増産のために働くであつたが、ま

A vertical illustration of a person from behind, wearing a white kimono with a red collar and a yellow obi. They are standing in a landscape with green hills, several trees, and a small blue object in the sky. The style is traditional Japanese ink and wash with color.

六月十六日 土曜 晴

黑板に休養と書いてあるとて、さうなつておぼたので、大へん嬉し
 かつた。午前中は、地理の勉強をして、ようと思つて張りきつて、中
 にがづかれて寝むいし、いやになつて、さういふきに入れて、はた
 く、遊ぶでしまつた。午後歸つて、**昨日**の日記を書いてゐ
 る時ふと氣がついてみると、今までの楽しく味ひする、私ばかりい
 へては、方がなかつた。芍薬の花がすつかりとをれて、悲じよう
 面顔つきた。私までが、悲しい世界へつれ
 した。それから晝腹をした。
 まり、わづかれにぐつすり腹こん
 びしまつた。起されて、べん目をあ
 け、
 たが、みなが



あ



いさがつてしまった。道を歩いてある時、ばんやりとしてあたりがぼろとかわるでゐてふらふらしてしまつた。

六月 十七日 日曜日 晴

目ごめた時はあたりは明かるく日がさし込んでゐた。今日は目醒めで生校運動がある。白矢戦をやることになつた。始めはどんな事をするのかわからなくて嬉しいうやうにうさうさうやうに返りを感じがした。體當・柔道・剣道・手榴弾を投げる訓練なのだ。今までには夢にも思つてゐなかつた。おかしくてみんな笑つてしまつた。最後に體當のし合ひをしたが負けてしまつた。

ふやしくて勝つまでやりたかつた。今まで待ちに待つた高田先生がやつと夕食頃にお歸りになつて、とても嬉しかつた。

勝ちぬくまでには



夜、矢張り、かたに、向う、に、来て、下さつた。とても、嬉しかつた。

六月 十八日 月曜日 晴

今日もけげんかなお日様が照つてゐたので、桑へへ食糧増産―足をきかたへに登る事が出来る。へん登つた事があるので、らくらくと吹らぬまに頂上に着いてしまつた。前は一面に美しい花が咲いてゐたが、二たび来た時は、花は少く、木に青々と

枝りに茂りつゝもてゐた。ぐみぐみ水にみみりつて、細い顔を出して笑つてゐた。玉にふきをかたづけしから取つたので、ふきのあつたところは、きれいにまるぼうずになつてしまつた。お雑當は見知らの良し一ばん良い場所をえらんで、いただいた。先生がささの葉でお湯をのめるやうに教へて下さつた。面白いので、ささの葉で作つては、のみきりがない。とうとう、これにもなつてしまつた。

六月十九日 火曜日 曇りのち晴



午前中もいつもの授業のとほりに終つてしまつた。午後になつて少し晴れてきた。待ちかねてゐた一時、来た。長い列を作つて、げき場に向かつた。少くも、古いやうな家には、いつた。あつた。かしら、と思ひながら、中にはいると、不要な場だつた。幕がなかなあかなないので、しまひには、たいてくつしてしまつた。幕が上にあいて、私達の疎開児童のために、はるが東京から来て下さつた。張り切り部隊が現れ、手ふうきんを持つた方、バイオリン、たいこ、ラッパ

それぞれの物をつかつて、ひいた。何とも言へないほどいい音だった。私はもとより音楽を聞くのは、好きだったのだ。とてもよい氣持だった。きらいな犬の人がきらいな洋服を着て出てきて、おどりをおどしたり聲を響かしたりしてゐた。とても面白かった。

六月二十一日 水曜日 晴

今日も雨が降ったやうに晴れた。だが山菜取りだ。今日は六年・五年・二年と別れて、それをれ違ふ所で取った。はりの背があつて面白くて、一生懸命に取った。はりのあつたので今日は面白くて仕方がない。ちまつかれた。小矢部川の橋の下の中すべで日影の涼しい所でいた。た。とてもおいしかった。午後歸つて来て、つかれをこつちのけて、お洗濯をして、こつちへ来て、私はお洗濯がすきになつた。

六月二十一日 木曜日 晴



一日ももう終りになる夕方だ。こつちへ来て、まだペンも来なくて、日にくて、江方がなかつた。お父様からのお便りがたつた。今一通も来ないのである。あまりの嬉しさに私の胸は、どつた。今までの明かされた心だ。さう明かされるばかり、お父様からのお便りを讀み、私はお父様に御心配をかけずには、はからにりっぱに過さうと思つた。ふと見たところ、お便

に番號がふつてある。ニガない。私はどうしたのだらう。すうらなひいあ。としばうくは思つてゐた。發表會の練習をすまして、寝巻のまよはれたる刈りに外へ飛び出した。始めのうちにはなかなか見つからなくて、すうらなひいあにだんだん、一はの見つかるやうになり、こんではねまはり、どこまでも追ひこちんでも取つた。とても愉快で、笑ひがとまらなひいあどだつた。

六月二十二日 金曜日 曇

午前中は發表會のまう練習で過してしまつた。時間のたつのは驚くほど早い。午後先生が遊んで、とき良いからちよいちよい練習をなさいとおつちやつたので、一ぺんして、あとトランプをしてゐると、きう時間が来てしまつた。私は遊びに夢中なのだから、あつて先生は何回やつたか聞かれ、時困つてしまつた。答へると、先生に笑はれて、まうた。私達のちよいちよいは、一回だ。考へるとおかしくなつてしまふ。歸る途中、その方がほたるを下さつた。皆大喜びで、いただいて歸つた。夜、はひいあは、はひいあは、遊ばしてやつた。とても嬉しうだつた。小さなちよいちいは、美しく輝やいてゐた。空には、おぼろ月がぼつかりと浮かんでゐる。

六月二十三日 土曜日 曇り

今日は午前中、練成會をする事になつてゐる。朝會をすま

して本學校の講堂に集合した。みんなあつては福丸

校赤松校に見せるので張り切つてゐる。皆一生懸命に

のどとても面白い。真違つた敬語を言つた時笑つた人が

ゐたのでそれについて困つてしまつた。どうもへて

ゐた。二年女子は前から練習してあつたせいかお上手

だつた。午後、入るとこのドラムを遊んでしまつ

た。六月二十四日

日曜日雨曇

今日は日曜日

で休養だつた。

久しぶりの雨

降りだ。外は薄暗くやつくりと落ちて行く。

ムトランプを始めだ。いつまでやってもあきないのに

自分でもあきれてしまふ。時間のたつりは早いもの

で、トランプをしてゐる間にお晝に付てしまつた。

午後、日記を書いて、明日の練習をした。いくら練

習でもぼんたうのつもりで、一生懸命にやつた。

お風呂から出て、すぐ寝たので氣持がよかつた。が、骨

つくてなかなか寝られなかつた。今日の晩もさぐさ運動

まんでんであらう。大島さんが足が痛いと言つてゐた

ので少し心配だつた。自分が身變りになつてあげた



の役だつた。

六月二十五日 月曜日 晴

今日も元氣よく起きた。いよいよ

發表會の日が来て、皆よく張

りきつたのでこの發表會も

リッぱに終つた。の

ある。皆は

練成會の日

りもいつそ

がんばつた。

すつかり

つかれきつて

お洗濯を

照る月影はまん月のごとく

する氣にはなかなかなければ元氣をふるひおこ

して一生懸命に洗つた。いつも洗濯物がたまつて今

日も全部は洗ひきれなかつた。夜小矢部川のふ

ちでお月様を眺めた。ああお父様やお母様、戦地

のお兄様もあの月を見てゐるだらうと思ふと、

家におた頃ハの樂しかつた事が思ひ出す。静かな夜

のついでにもこ

でも見送つては、いろいろと思ひ出してゐたところ



どころではたるが青の光を見せてゐた。

六月二十一日 火曜日 晴

今日も明かしく登んでおてすつきりとした青空に一つ
急に變つて

新選び

に西太夫

へ行く事

に上つた

お辨當を待ち

水筒を持

つて登んだ川の水を

見ながら歩いて行つた。うら

から表へ運ぶのだ

はん最初は少し手堅くして重いなと思つたがだ

んだとなつて來自分のためのため、夢中になつて

やつたので自然と足がかるくなり何もかるがるとすんだ

歸りは出来るだけ持てと言はれた。今日け元氣一ぱい

でけがらかにやつたのですぐすんでしまつた

六月二十七日 水曜日 晴

今日も昨日計を流して外へ連んだ薪を山下寮まで運

搬するのだ。昨日の足の痛みもすっかりけつて元氣

が二倍のわさ出て來る。薪所へ行つて薪を取つて歸

つて來た。一生懸命になつてゐたので思つたよりも

つかれなかつた。午後少し休んでから薪運搬に行

つた。今度は前よりも足が重かつた。夕食後に残念な

又悲しい情報があつた。沖繩が取られたのだ。私は思はず

齒をくひしはつた。沖繩でかたばつて下さつた方々の



事を思ふ
としげら
くは炎勢
をくづす
事が出来
なかつた

宿舎へ歸るとすぐお風呂場へ行つて体を水です
つかりふいた。あまりのよい氣持で今日のつかれも
どこからとやらも逃げて行つてしまつた。今日ばよ
ほど汗が出たらしくまだ下着がぬれてゐた。

六月二十八日 木曜日 晴

今日は普通どりの授業だが比自習で國語一時間

だけなので國語がすむとすぐに昨日着かへた物を洗

いに宿舎に歸つた。日はいやといふほどかんかん照りつ

ける。まだお洗濯をするにはいいうつと時間がある

き。水に洗はうと思つてゐたらおそくなつてしまつ

た。日はじりじりと照りつけ、洗濯物はすんずんか

わいて焦しい。夜暗くなつてから高宮橋の方まで

はたをを見に行つた。橋によりかかつて下を見ると

青い光を美しく輝かしたはたがぶつかり合ふほど

ぬる。一ぱい飛び歩いて水にもうつて何とも言へない

ほどきれいだつた。あまりきれいで、えこがらはも

う足が離れなかつた。

曇のち雨

興つてゐた。新運搬をする

るのだ。今日は福光の五年以
上の方が總動員で、お予傳ひ
を、して下さるのだ。私は、こつ

はい持つつもりでござんで行

またもう福光の方ば上手にしよ

つてゐる私達のために、自分より大キい

ものゑ氣持よく進んで待つていつか

下さるゝあまり皆が頑張つたので午前中ですんで

しまった。晝食は、特においしかった。夜、今年になつて

始めて、新しい私の大ざなまがあらわした。

六月三十日

土曜 日 雨 曇


今日はお裁縫があるので皆喜んで帰りはかりに學校に

何かつに。會語の時間も間もないうちに終つた。十時五十分

から福光の先生が入營なさるのでお式があつた後の方で

お顔は見えなかつたが、元氣なお聲が私の耳にうつつた。

少し雨が降つてゐたが門にせり列してお見送りした。

國のたぬに行くのですから先生は元氣にみ

ち
あふ
水
こ
い
ろ
つ
し
や
つ
た
歸
つ
て
き
で
ふ



二十八日

と見ると黒板に午後月未入掃除と書いてある。せつかくの
戒縫も又ぬけてしまった。私達は今後、前にお掃除をした
ので、今学校のしふとした中で、いろいろとランプをとって
遊んだ。

七月一日 曜日 巳時

今日もいまにもやあつと降りゃうな天候だった

日曜日に於第五日
の夜業が

あつた。
綴方がすん
で
お習字

の時間になった。



今日は、私

のうばんにが手の名
前のお

せり書があつた。
一生懸命に書いたがど

も氣にふりかた。午後歸つて晝寝をした。

いつものつがれでぐっすり寝こむて起きる時

お友達にもう頭洗ひがすんで氣持よさうにし

ゐた。私はびつくりして急いで行つた。かつかつ下頭

も、アぱりして、目
が、あゝめるやうだつた。それから

みの前に行つて櫛でき収めにとかしたとしても氣持

かよかつた。

七月二日 曜日 雨

レシートとを肴て學校に行つた。今日は休養日なのだ。

鉛筆をいづたりいたして△集さぬのみぢか

鉛筆を削つてゐる間に全部けづてしまつ



222

七月三日 火曜日 雨のち晴

七月五日 木曜日 晴

A drawing of a person in a kimono with a red sash, surrounded by Japanese text and a red arrow.

七月六日 金曜日 雨

かばんを持って、圖書館へ行つた。

今日は私達は、圖書館で授業なのだ。

午後は楽しみにしてゐたお裁縫があつた。

私は嬉しくて授業の始まる前から手がはづんで、

すっかり用意して待つてゐた。一生懸命縫つて早

く出来たので喜んでゐたら、裏表さかさまだ。

がっかりした。だん氣を取りなはして又縫つたと

ころが又失敗だ。二度めの正じきと思つたら、

四度めとなつた。そのうちとうとう夕食になつて

しまつた。

七月七日 土曜日 雨

午前中に少し小雨が降つてゐたが、生徒隊のけつせいの

式の練習をした。身輕になつてはだしになつて

兵隊さんに負けず張り切つて、一生懸命にぶん

列行進をした。赤松校も福元校も皆いんけんた

つた。夕方英靈をお迎へしに福元驛まで行つ

た。敬禮前に参發してゐる福元校の人達はけ

らげら笑つてゐる。私達は信けんになつて有難

うございすすと有難さを感じてゐるのに笑つ

てゐるのにはあきれてしまつた。でも、自分さへ

よく出来れば良いと思つた。

七月八日 日曜日 曇り

今日は休養日である。

朝いつもより早く起きたのでねむくて仕方が

なかつた。机によりかかつてうとうとしてしまつ

た。リッせい式等お式が長かつたので足が感じな

くなつてしまつた。お式がすんでから朝食になつ

た。寮へ歸つてと二屋さんへ行つたりして、その

間に廻問文を書いたりした。

今日はと二屋さんにも行き頭洗ひもするし、お

風呂にもはいつたのでさっぱりしてぐっすり寝

てしまつた。

七月九日 月曜日 雨のち晴

午前中は第一日の授業をすませて、午後にな

つた。六年は町えうに参列する事になつた。

講堂でござの上になつたとすはつてゐた。

始めのうちにはよいがだんだん足は痛くなるし、

眠いのでいまにも眠つてしまひさうだ。ふりに目

を大きくあけやうとしてもなかなかだめだ。

たまらなかつたがじつとがん張つた。やつと終

つて、立つた時、ふらふらしておじ義をいた

時は、終の人になつてしまつた。ヤフと講

室から出たと思つたら、今度英靈送りがあつた。

七月十一日 火曜日 晴

今日は晴れてゐるしお餅つきで自習が多いのでお洗濯に寮舎へ歸つた。私の洗ひ終つた頃は皆えんがはで遊ぶでゐる。急いで干してお仲間入りをした。午後歸つて来て午・睡医したつかれてゐるので、ちどとやぐつすりだ。

起きる頃は學校でお餅が待つてゐる。ばけは糖はあまいし、何とも言へないほどおいしくかつた。

七月十一日 水曜日 晴

本島さんのお母様がいらつしやつて嬉しいと思つた。もうお歸りになつてしまつた。朝食には先生方のあひのこもつたお餅がはいつてゐた。これでお砂糖がはいつてゐれば、草の時の同じだと思ふとたべたふなつてしまつた。今日も午睡があつた。

七月十二日 木曜日 晴

今日は圖書館のばんだ。二階で製圖があつた。もう一生懸命したびすが痛くて、腹がふらふらだ。とても力がゐる。午後寮舎へ歸つて書腹をした。静かだし、何となしに家を思ひ出す。一時またに塾校へ行つてお裁縫に夢中になつた。今日こそは、**戦経**に作りあがつた。とても嬉しかつた。胸をどろせながら、先生にお出しした。

七月十三日 金曜日 曇

洗面をし始めると、乙葉さんが後によりがつかつて、だまつてツツ立つてゐるので聞いてみると「苦しい」と言ふので驚いてしまつた。だうく、一人病室の床に着いてしまつた。朝會の前に先生がふいに日記を出しなさい、と言はれた。ちようどたまつてゐたので困つてしまつた。夕、高田先生と私と二人でお散歩をした。いろいろ事をお話しながら、山下寮の前まで来た。窓があいてゐたらおみまぬに行かうと思ふてゐたが、あいにくしまつてゐたので、残念で仕方がなかつた。が外から大聲を出して呼んだが、元氣は返事があつたので嬉しかつた。それから島を見ながら、ぐるつとまはつて歸つた。空は真赤にそまつてとても美しかった。

七月十四日 土曜日 晴

今まで雨で部屋の中ばかりはいつてゐたので、今日は立野ヶ原へ行軍した。元氣よくお辯當を持つて立野ヶ原へ行くと、寮毎に別れた。私達は村の方へ行つた。たばこの葉は驚くほど大きかつた。いろいろ野菜もいっぱいあつた。川を通つたり、神社に参拝したり、おみやげのあざみを取つたり、ほうづきを取つたりして歩きまはつてゐる川端

ではうきばたにしまひ花ばたにつけて楽しんでお
食事した。午後午睡をした。起きるのはよいではない
かった。

七月 十五 日 日曜日 雨

日記を書いたりして何も忘れてゐる時突然お恩澤
さんからお便りがあつた。さうそう見ればあの人や
さんのお母様がなくなつたのだ。思ひす皆はため息を
まつてだまりこんでしまつた。前め事、恩澤さんの事
が次々と頭を浮かぶ。これはお私達の胸をうつたか
わからぬ。そこへ吉田さんのおぢい様だひよつたり
いらつしやつた。思ひがけなれり事ばかりだ。午後さつ
と、恩澤さんに繪を書いたりしてお便りを書いてか
ら吉田さんと二人で、葉さんの所へおひまひと
同時に學藝會の時するさうだんをしたりした。

七月 十六 日 月曜日 雨

いつものやうに授業も終つた。今日のお晝は私
の持つて行く番だつた。お辨當箱を取りに行つ
てしばらく病室にゐた。何氣なくこんな目にも面
會に来るといふわねと等と話し相つたりして、葉
さんけ、たいくつだと言ふめでおり紙やうつし繪私
のを明日持つて来るとやくそくして別れた。夜
察に歸るとお姉様がすはつてゐる。私は嬉しく
て何もかも忘れてはこころしてゐた。夜はお

おひりて手を一つなでて寝た。

七月 十七 日 火曜日 雨

今日は前田先生をお送りするのでお授業は二時間
で早お晝をのたいた。お姉様が時間かわらな
うしくなかく来ないので少し心配だつた。それから
驛まで前田先生を先頭に行つた。汽車の来るま
で聲のかぎりに歌つた。人へん喜んでいらつしため
で私まで嬉しかつた。こぼりたうたうお別れす
る時が来た。前田先生は窓から嬉しうに旗を振
つていらつしやる。私達は聲をからして萬歳をし
たり歌つたり思ひつきり帽子を振つて見えなく
なるまで元氣よく送つた。あたりは急に静かにな
つた。おかげでのがからうた。

七月 十八 日 水曜日 曇

夕靄空襲になつたので朝おそく起き、授業は二
時間目からだつた。地理には考査があつた。すぐ
あつめられてもう一つの考査とおどかさ小たう
石田先生といふ題で何でもよろしいとおつしやつた
ので、心をこめて書いた。これは戦地へ持つて行か
れるのだ。夕方お姉様が歸る時がきた。とてき
つまらぬ。見えなくなるまで聲を張りあげて
ややうならーとさけんで手を振つた。夜少しおそ
くまで起きて石田先生の慰問品を作つた。

七月十九日 水曜日 晴

今日は乙葉さんが起きられるやうになった。又皆元氣になつてよかつた。午前中お洗濯をする事になつて寮へ歸つた。私は姉に昨日して貰つて少かつたので病氣あがりの乙葉さんのを洗つてあげた。自分のではないので特別きれいに洗つた。あつかり干してから乙葉さんと二人で高田先生の送り物を作つた。私の布で前のりばんをつけた。牛后は石田先生の送行式が行はれた夕食にはお餅が出たし大さはぎでこもにぎやかだつた。お餅は大きく砂糖はあまり。満腹して全部終つてから二號室で手をたたいたり歌を歌つたりとても愉快だつた。暗くなつてから寮へ歸つた。たまに暗くなつてから歸るので面白かつた。

七月二十日 金曜日 曇

一時間目の算數はお宮の境内でした。あゝ算數したりした。二時間目の最後の時間が氣になつてなかつた先生の事が耳にはいらなかつた。せみの聲もよく聞える。地理はたうたうめけてしまつた。がっかりした。午後暑い日光の下を通つて立野ヶ原へさつまいもを取りに行つた。思つたより少い。夜はおめでたうございませうと言つて眞心をこめて

作つた品物をおあげした。そしてみんなのをあげて並べた。皆心をこめただけあつてとてもお上手だ。

七月二十一日 土曜日 曇時



いつもより早く起きて福光驛まで石田先生をお送りした。乙葉さんの。石田先生は思ひきりせいのびをした。これが最後なのだ。午後立木先生のおふとんを運ぶので寮舎へ歸ると七理さんのおふとんがいらつてやつた。夜に埋さんのお母様がしをりやこつぷ等下こつた。

七月二十二日 日曜日 晴

今日は久しぶりに晴れたので行單をする事になつた。今まで運動不足なのですぐつかれて休む。いかに何と言つても持ちどけい。小矢部川は相變らずきれいな澄んだ水がどうどう流れてゐた。立野ヶ原へ行つてまけつて歸つた。書食のおいしい事。

七月二十三 日 月曜日

午前中はいつもと變りなかつた。
水が出なかつたので食器も洗はずで外へ飛び出した。久しぶりの体操は思ふやうに体が動かない。やりなほし、まはれ、右にをかしくつて、皆くすくす笑つてゐる。私もふき出しさうだつた。

七月二十六 日 木曜日 晴
午前中は自習だつた。午後、牧事のおばさんと野菜を取りに行つた。配給所もいそがしうだ。もうすっかり夏らしくても暑い。私は三橋さんといつしよに持つた。働くのは良し事だ。それだけおもしろいべられる。

七月二十四 日 火曜日 晴
今日のお洗濯は、帽子をかぶつて川端でした。もう梅雨もあけたらしきお日様は、私の背中に焼けつくばかりに照りつける。干す頃何だか目が弱くなつたやうな気がした。午後お裁縫がすんでから音楽室で遊ぶをんぶん晝寝した。五時まで寝てしまつた。

七月二十七 日 金曜日 晴
もう圖書館で授業する時がまはつてきた。午後今日のやうによく晴れた日にお洗濯をした。今日も川端でした。いやといふほど暑く、汗がにみ出る。やつとすんでから午睡をした。

七月二十五 日 水曜日 晴

七月二十八 日 土曜日 晴

今日は、蕨草取りをしに行つた。お達か子には向かうふ岸をさがした。一生懸命さがしてゐるのだか目につくものは赤い野いちご。つまらじい。ある所に澤山ある夢中になつて取る。少し元氣づく。だんだん道が悪くなりなかつてしまつた。下駄で歩きたくいし、やつと橋に着いて、腰おろしたら立てられなかつた。腰が鉄のやつに重い。休けりかならかなあーと思つたらある日影でなつた。干れ替はとばかり早くも、腰は地に着いてゐる。

すぐ傘をかぶつて袋をかぶつて元氣よく歩き出した。暑い日が續く。雨がけはにわがれて、私達喜間先生の命令にしたがつて福光橋から前進した。今日は一ぱいある。すはつたら最後一ぱいあるので動けな。この間と違つて、一ぱいある。ので面白い。袋にはいらなくなつて、高田先生の綱にも入れていた。まだあるのを残して歸るのでおしかつた。

綱 綱

七月二十九日 日曜 晴

今日は晴れてゐるし運動場があいてゐたので兵隊さんの出ていらつしやるまで全校運動をする事になつた。久しぶりです。五六年たつしよにしゅうるの球をした。私は一生懸命してゐるのに皆だらだらしてゐるものでしやくにはやるやうな気がした。私達の組はこれでも勝つた。これから勝負に頑張らう。夜吉波先生が四男等のお話をして下さつた。私は有難さが今まで以上にいつそうよくわかつた。先生のお話は楽しんだ。

八月一日 日曜 晴

今日は休養日だつた。午前中眠いのをがまんして自習した。午後午睡してから三葉さんと鉄棒をしに行つた。なかなか坂あがりが出来ないが頑張つたらやうと出来るやうになつた。こんな日も出来る。今までは出来た事のないふびあがりも出来る。とても嬉しい。しまひにははたしになつてやつた。

七月三十一日 火曜 日

今日はふいに阿久澤先生に考をされた。算数は面白いのだが先生がふくしやうをして下さつたのでお分たすめつた。お食事の最中に歸して下

に面白い物でもはいらなくて困つてしまつた。

80点だ。残念だ。時間が少なくてあつてたからがもういらない。でもこの間よりは少しあつたから頑張しよう。

今度はもつと頑張らう。午後頭元いがすんでさう玄關のお掃除をした。今日はすつかりさつぱりした。

八月一日 水曜 日 晴

一時間目もすんだ。ふと黒板を見ると新運だ。急いで玄關に集合した。皆一生懸命で出来るだけ待つておく。夢中になつて運んでゐるのでまたたふまにすんだ。午後小矢部川を見る。三部四・五年が氣持良さうに泳ぎまはつてゐる。とても暑い。いしほりたくて仕方がない。何だか体が浮いてとびこんで行きさうだ。そのうちに先生がはいつてよろしいと言われた。相良さんと七理さんは水着を持ってゐたのでさうそく水につかつた。とてもうらやましかつた。

八月二日 木曜 日 晴

お授業もすんだので午睡をした。

知らぬまに夕食の時間がきたのでいやいやながら起きた。

前田寮の人達が来た。今日泳いだらしくお喜びさうに皆泳げるやうになつたと喜んでゐる。

八月三日 金曜日 晴

朝會がすむとすぐ炊事場へ行つて、お晝御ち走にな
る。お晝の皮むきを急いで始めた。あゝ何分で
いなくてはいけなうない。あせればあせるほど皮は
こびりつく。やうやうと出来た。午後は水泳だが私
はお腹をこはしてゐてはいけなうので仕方なく、乙葉
さん達や先生と、やーきやー言つてすくつた。こちら
も水泳に負けずおそろしく面白かつた。夕食の時、
阿久澤先生が黒板に夏とお書きになつた。その下
休ですやうにと思つたら、夏期特別鍛鍊週間だ
つた。

八月四日 土曜日 晴

いよいよ夏期鍛鍊にけいした。午前中は水泳である。
見學人は櫻の木影で休んだ。お晝をのんびりして
ゐたが、いっまだつても終らない。暑くてうちはであ
りでも涼しくはない。のどはかわく。たいくつのことお話に
ならなう。水泳の競走を見ても始めのうちには面白か
つたが、やはりつまらない。待ちを重ねて、やつと
のこで終つた。午後、女學校で午睡をとり、夕食後
皆で校庭にわを作つて、聲のかぎり軍歌演習をし
た。とても楽しかつた。もつとしたかつた。

八月五日 日曜日 晴

今日は四時半に起床して、そつと静かに小矢部川で顔を

清めて、神社の境内に集合した。聖居寺へ行軍だ。
私は吉波寮を大いようして、石黒村まで行くので、女學
校で休んでゐた。朝食がすんでから、すぐそばをかわ
つて、有賀先生方をいれ、**代**表者といつて、**池**上國民學校に着
いた。ごもかしこも、きちんと製顔してきりだ。
皆集まるまでレコードをかけて下さつた。集つてから、
最初にけん長の方のお話のあつた。あとに、ごこの校長
先生がお二人おとぎ話をして下さつた。千代ノシタテ
やは、知つてゐたので、少し眠くなつてしまつたが、
つと**秋**後してゐた。あゝおへそのおやぐになつた。お
話とおへそはのくきは、どうして赤いのかと言ふお話
だつた。皆にこにこしながら聞いてゐた。とても面白
い。さあ早く歸つて、皆にこの面白なお話をして
あげやうと思つた。午後は水泳だつた。曇つてい
まつたので寒かつた。

八月六日 月曜日 晴

今日は午前中、水泳だ。嬉しいばかりに足は軽い。福光橋
のところへ来た。すつかり用意が出来て、体操をして
あるとうすきみ悪いさいれんがけたたましく鳴り
出した。取りやめのやうなので不安な氣がした。

楊の川景で休んでみた。たかじょう報のぐあひでけい
る事になつた。嬉しい。今日の場所は練習するの
によい所だ。少し泳いでから日にあたつて又はいつ
た。また足で進めるやうになつた。高田先生におそはりなが
ら一生懸命。びくも練習した。喜門先生と水のびくが
けつこもした。今日はとても面白かつた。愉快だつた。
午後は午睡した。そのあとで頭洗ひをした。

八月七日 火曜 日 晴

今日は山下寮のおひついで午前中お手傳ひする事に
なつてみた。がしなくよくなつたので一號室でトラン
プをした。りして楽しく遊んでみた。そして午後西尾寮
へ三部四年の荷物を運んだ。私とあつた六人はまた班
の受持つた。終つたので一號室でトランプをしてゐる
。西會人らしい。こは太らうがへ。あつてて。あつてつを
した。校長先生なのである。まもなく馬鈴薯とコーヒ
のお三時があつた。けつべにの落ちさうにおいし。入あ
る。といひなあ。と思つた。夕食の前は講堂で校長先生の
お話があつた。わかりやすくお話して下さつたのでと
ても面白かつた。

八月八日 水曜 日 晴

大詔奉戴日である。校内でお式をすまひてから二
部六年は、山下寮の玄関の大掃除に行つた。今まで

新とおいてあつたので子のつけやうがない。よくづを炊
き場へ一生懸命運んだ。かんにも運ぶ。先のなほうき
で思ひつきりカを入れてはいた。皆も一生懸命。やつ
と終つた。一生懸命した。だけにすろ分きれい。つぱり
で嬉しかつた。午後寮でお洗濯のすろ人から慰問
文を書いた。

八月九日 木曜 日 晴

朝會がすんでからすぐに三年の荷物を本田寮へ運
ぶので山下寮へ行つた。何回も往復して運んでから
お掃除をした。今度本田寮が本部だ。一生懸命仕事
をした。ので時間もわからぬうちにお晝がきてしま
つた。午後今度は山下寮のしんかんを三部六年でする
のだ。ものすごいよ。これかになので驚いてしまつた。
寺波寮も今よりきつときれいにして。手本にしてやり
たいと思つた。きたなにしんかん六間と下でお手洗ひ
もきれいになつた。私運でもしんかんに出来るのか。と
思ふと嬉しい。家にゐた時のわがまを考へると、
良く悪い事がわかつた。

八月十日 金曜 日 曇り 晴

いつものやうに元氣ぱいりて學校に着いた。このこと階
段をのぼつて行く。どうでせう。宮地先生の書いておられ
強いけつさりした字。ああ。いよいよソ聯と戦闘状態へ

八月十一日(土) 曜日

午前中は作業豫定。私達は馬鈴薯の整理

をすゝめるゲームのだからこのをより

だ
たり大
な丸
なので
す

米あがつた。馬鈴薯がーぽい

あるので、
嬉しい。ランプを
してゐると、何

かふの方で面白さうにゲームをやつてゐるのたゞそ

こへ行つてやらせてもらつた。思つたとほり面白い。

何べんやってあきなかつた。午後水泳が終つてか

馬鈴薯のおつがあつた暑いふかふかしたお

著は、とてもおいしかった。

八月十二日 (日曜日) 晴

今日も静かなお天やかな日だ。たにへうるやこく暑々



を強く感じさせるのは、口と耳に打ちつけるばかり鳴きたる、強心間の、ない煙の聲である。

A small, colorful illustration of a landscape. In the foreground, there is a river or stream with a red line indicating its edge. The middle ground features a church with a red roof and a steeple, surrounded by green trees. The background shows a blue sky with white clouds. The illustration is framed by a red border.

一時間目は國語なのだ。いつもふく習の
用意はしてつい遊んでしまつた後かいす
る時が來た。ふいに劔だ。もう自分の不注
意が何も出來なかつた。口惜しくてた
まらなかつた。ずつと自習なので勉強

しよ^うと^う思ふのだが何をしても氣にいらな
く面白ないので國語の意味を調べただけで終つて
しまつた。午後少し曇つてきた。外を見るに何氣
なくきれいだつたので繪が書きたくなつたので書
いたがきにならなものでしやくにこはつて何もや
めて皆と樂しく話したり、ばやんこしたりしてお
た。おれから鳥眞を見たりして樂しくであつた。

八月十三日 (月曜日)


高田先生はまたよゝおなりにならぬ。

心配が消えたり。お食事がすんでからすぐ

京へ歸つてお先づ
 生れ度いのでして
 病

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

光の曲
のふり
は、
（ひまわりの）
花を
描く

[illegible]

た今度の時 脂力

らに先生からうしなはれたので、自習な



六月十四日（火曜）晴

八月十五日(永曜日)晴

習はかした。朝會がす
み、
も 體重

す

だ

午前中

へつ

こし

もあ

體重

には自

八月十六日 木曜日 晴。

233

して皆を持てゐた。午後國史を少しやつてから新聞を
讀んだりトランプをしたりした。夕食は馬鈴薯の代用食
にた。とてもおいしかった。夜お風呂にはいった。今日洗つた
はがしの着がへた。とてもさっぱりした。それから約束し
たせつけんと高田先生にさああげた。晴
八月二十二日 月曜 日
じりじりと照りつける太陽の下
元氣よく朝會をした。
午前中お洗濯をした。
か今日は、何もかも急いで
はかなが落ちつかない。午後國
史のし劍を仕あげた。夜高田先生
で夢中になつて十ポレオンの繪取りをした。
とても楽しいものだ。



八月二十一日 火曜日 晴曇

午前中は國史だけなのでながか時間がたつた。い
眠りし自習をし
の時間。も
面白いため
でしやつ
遊んだ。今日は疎開
と十日目だ。それを記念として大御馳走があつた。眞
白な御飯やしんやき、さつりもやしやけかん馬鈴薯等
あへきいはいほどだ。疎開學園ではたまにこんな膳も



てゐる間にやと國史
來た。國史の時間は
さかさまにすくすん
午後トランプをして

い事もあるのだ。とてもおいしかった。私は齒ぎみが痛
いのでおそくなる。と困るので一生懸命になつてがんばる。かみか
み鋸二三。

八月二十二日 水曜日 晴

自習をしてゐる間に綴方の
は書きなげしたのでおそくな
今日は、お習字は、樂放送を
お出しする事になつた。私は
けなかつたので午後おす事
懸命練習した。がうまくな
つかりへたになつてうで
のに情なくなつて、たう
してしまつた。私は今度
よう。お姉様にこんなのを見せたら
しまひさうだ。お父様にはしかられさうだ。と思ふ。口惜
しくてもつと練習しようと言ふ氣持があふれた。それから
晝寝をした。今日はいやに早く時間がたつてしまつ
た。八月二十三日 木曜日 曇り雨



今日は朝から薄暗くどんよりと曇つてゐた。朝會の前に
先生が運動場の端にある戦車をまはつて來いと言は
れた。ぶあいと驚いたが一生懸命走つて來た。來た順に
何べとおつしやつた。びりかと思つて夢中になつた。私は一番

たつたので嬉しかった。午前中、
 ときたりしてのらうらう。
 午後、音楽室から炊
 肌やおはすを運んだ。
 にどいや降りに雨が降る。
 さぞ喜んでぬ
 ばらう。夜、寝て
 はらうの間おーやべ
 てぬ。高田先生が青と
 んをしたお話をして下さった。とても楽しかった。

八月二十四日（金曜日）晴

今日、第壹番に學校へ行く。や、夏をあげた。國語の時
 間もすんで自習をしてゐると、部六年は野菜取りといふ
 のですぐに足かけた。や、屋さんは福光橋のところに
 かどだつたさるの人
 ぶ私ははけつにア
 のやうなへんな形
 をしたのを炊事
 三回目はおなすだ
 りあひと軽かった。午後、お習字をしようと思つてすつか
 り用意して来たが大勢あつてうるさくて出来ないの
 トテンプをして遊んでしまった。夜、吉波さんのお兄
 様と高田先生と皆で、テニスをして遊んだ。



昨日の体操の時、鐵棒をしてもよく出来なかつたので、け
 さば、食器を洗ひ終ふと、すぐ底鐵棒へ走つた。ばん高
 いところであつた。はなつたので嬉しくて、んかいたした
 り、何度もうり返した。一生懸命やれば何とでも出来なはずは
 ない。理科の時間は原
 て下さる事になつた。
 いまに仇を討つてやる
 聞きしてゐた。皆一生
 懸命だ。

八月二十六日（日曜日）晴

今日、地理は始めて八、飯先生にお教へていただいたのだ。今
 日は何かと思つてゐた。大東亞戦争の圖を書いた。もう、
 大體の圖は書けなかつたと思ふ。一生懸命だ。
 理科の時、肺結核の事をお
 ら、ぞつとして、息が苦しいや
 した。で、面白かつた。午後、頭洗ひを
 おふとんによりかかつて、日記を書い
 持でうっかりするこ
 うだ。夜、お風呂から出てから大島さんのお母様とお
 兄様方といつしよにかはべりへ行つて、涼んだ。皆の顔
 が、しつかりるで、眞白で、おーばおでも出て来る人み
 たいなので、大笑ひしてしまつた。



さて下さうた

八月三十一日 金曜日 雨

しばしばお天気が続き久しかりに長靴をはき、傘をさして、今日の國語で、朝顔を、理科の時間

算を、計算を、どん面白く進んだ。大掃除で寮へ歸ら、はなが一たそれから、たへながら、計算を、もう八月も終り、この月はよく出来た、だらうな、月はいうんと頑張らう。夜、班長のせんきよを、



九月一日 土曜日 曇

今日は曇り、空模様、雨はすっかりやんだ。水もわり、ぬた。第三日の授業に、國語は古事記、つた。算数はおんれでゐるので、理科、問もつかって面白く、ぼんぼん、午後、枝豆のおへつが、すんで、わ、を歩いて、机を運んだ。お茶の寮、配給になつた。今度から、は、傳へるのだ。晩、高田先生のお歸り、を、



九月二日 日曜日 曇

朝目がさめて、高田先生のおふとんとお見たが、やはり、こんは、動かず、昨のすまになつてゐる。うさうさ、急いで、文度して、學校に行つた。今日は、全校運動だ。行進の時は、何も忘れて、生懸命、命、た、そのあと、跡、昇、球、を、した。私達は、阿倍先生だ。皆、生懸命、命、つた。勝ち、な、ば、い、で、嬉、し、い、で、す、む、と、す、ぐ、高、鐵、棒、に、ぶ、い、つ、た。今、ま、で、出、来、た、事、が、な、い、の、に、体、が、自、由、に、動、き、坂、上、り、が、出、来、た。こ、も、嬉、し、か、つ、た。午、後、何、を、し、て、も、あ、ま、り、面、白、く、な、い、。高、田、先生、が、お、歸、り、に、な、ら、な、い、か、な、あ、と、思、ひ、な、か、ら、窓、ぎ、は、へ、は、か、い、行、つ、て、ゐ、た。夕、食、の、時、七、理、さ、ん、が、高、田、先、生、が、い、ら、つ、た。や、つ、た。と、言、ふ、の、で、と、も、嬉、し、か、つ、た。夜、お、風、呂、で、先、生、が、洗、つ、て、下、さ、つ、た。

九月三日 日曜日 曇、小雨

昨日の、引、つ、て、は、い、の、時、と、命、書、い、た。算、数、の、時、阿、久、澤、先、生、に、出、ぬ、の、お、話、を、し、て、下、さ、つ、た。午、前、中、は、二、時、間、で、お、い、ス、チ、キ、を、し、た。四、時、間、目、な、す、う、る、事、に、な、つ、た。こ、れ、を、お、い、ス、チ、キ、が、か、や、に、と、ま、り、う、る、さ、に、強、く、秋、を、思、は、せ、た。



九月四日 火曜日 雨、曇

今日の時間の地理の授業で大東亞戦争の圖をまきしたのは
終り丁のようです。ぴーとを出したのがこの時間中にはま
されかけた。國語の時紙一枚持つて外へ集合
何だらうと思ひながら外へ出た。にがてな
俳句を書くのだ。一生懸命に考へに思ふやうに行か
。朝顔を見て書かうと思つても浮かばない。枝豆を見
てゐるころやうと蛙が飛び出した。何にか
見ておかしなやつてしまつた。そして詩を書い
た。うまへ行かはない。そのうら雨が降つてきたので
にはいつは午後お習字をしてから地理をしあげた。

九月五日 水曜日 晴

即ちさめてみる人起さな。昨日から今日泉へ行く
ので生かしてゐる私は静かに起きだした。まだ六
時前まだ寝てゐる人がゐる。洗面道具を洗つ
て歩き出した。屏の所であまり威びが出
ない所だが泉だけあつて気持ちよく清ら
つた。今日は安居寺へ久しぶりのお参り
。風呂敷を持って行軍した。とても暑く
が。一面に柏の穂が美しく。出私達には
い假をしてゐた。途中にゆが
。あつた。それからその人の帽
。のていばらく大びが止まらな
。お寺をおまわりしてから宮地先生が安居寺についてお



話があつた。歸りは四野尻へより野菜を持て歸つた。

九月六日 (木曜日) 晴時々曇

今日は休養なのでゆくり午前中休養した。日記は午後書かうと
思つてゐた。晝食がすんだので食器を洗ひまじうとして
。高田先生が元氣な声で
ききやうを取りに行く。こ
たい人いうつやいとあつ
ので私は多分いで洋服ま
てとんで行つた。訓練所
なかつた。ちよつと休んで又
。よもわ入が私達ののぞんで
めて持つてゐるの。聞いて
。いで行くと一面に咲いて
あるとは夢にも知らなかつた。私は夢中になつて暑さの
忘れて持つてだけ取つた。は
きやうのはききやうもすば
うよう歸つて来た。とても
。九月七日 (金曜日) 曇
今日の天候はあふいものたつたので。レノコートを
つた。今日から新しい時間
の第一日の授業だ。國語の時明日
。と言はれたのでびつくりした。今日
。やせもあつた。午後國語の勉強を



夕食後、お米運びに本田寮へ行った。もう、お米運びも二週
間たつ。今日と明日で終りね等と言ひながら歩いて行つた。
体には汗がにじみ出てゐた。

九月 八日 土曜日 曇時晴

はんだうなら今日は天詔奉戴日なのだ。
には思ひ出す。天詔奉戴日と書いてあ
たに白帽の事だ。理科の時脈のどこを
か数へたり人の脈を見たりして、い
さういふ検査である。びくびくし
ながら、

の字を待つた。午後、理科の時脈
は明日晴天なら、理科の時脈
は勝つていさういふで一生懸命になつた。夕食の時、
いさういふに私達の入すきには、大さうな
おひくで、ほつたが、さうだつた。夜布の配給が
あつたので、それをはうぎをいかにした。

九月 九日 日曜日 小雨

今日は晴天なら、理科の時脈
は勝つていさういふで一生懸命になつた。夕食の時、
いさういふに私達の入すきには、大さうな
おひくで、ほつたが、さうだつた。夜布の配給が
あつたので、それをはうぎをいかにした。

九月 九日 日曜日 小雨

今日は晴天なら、理科の時脈
は勝つていさういふで一生懸命になつた。夕食の時、
いさういふに私達の入すきには、大さうな
おひくで、ほつたが、さうだつた。夜布の配給が
あつたので、それをはうぎをいかにした。

今日は晴天なら、理科の時脈
は勝つていさういふで一生懸命になつた。夕食の時、
いさういふに私達の入すきには、大さうな
おひくで、ほつたが、さうだつた。夜布の配給が
あつたので、それをはうぎをいかにした。

を應へてくれる人も、いさういふから、何となく、暗か
つた。今度は、片足持つて、ふつかりつこをする。真中で、二つ
つ赤白に別れて、合ひた。こつきは負けた。つかれても、今
度こそ、六年女子も、全部負かして、男ことなつた。男でも、何
いも、いさういふ。その時、ひらで、胸をうかれて、息が出来な
くなり、いさういふ。つかれて、いさういふ。つかれて、いさういふ。
午後、髪流かをして、いさういふ。つかれて、いさういふ。つかれて、いさういふ。

九月 十日 日曜日 晴曇

今日は阿久津先生が御病氣なので、理科も算
算習で、日記を書いたりしてゐた。地理は、ハ
先生だ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。
前国民学校の生徒さんが、入つて、つかれて、いさういふ。つかれて、いさういふ。
いさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。

九月 十一日 火曜日 雨

今日は四日目の授業だ。目がさめた時は、もう高田先生のおふとん
だけで、姿は見えない。つかれて、いさういふ。つかれて、いさういふ。
教室で、地理のいさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。

今日は四日目の授業だ。目がさめた時は、もう高田先生のおふとん
だけで、姿は見えない。つかれて、いさういふ。つかれて、いさういふ。
教室で、地理のいさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。いさういふ。

うなかつたので氣候までが驚いたのか今朝想像してもものす
ごい大風もどこかへやらえんりよ早く顔をひつこめてしまつた

九月十日 水曜日 晴

二時間授業して急いで洗濯をしまへ歸つた。久しぶ
りにお目にかかつたのでお洗濯物は多
うなつてあつたから元氣な一日



がせたらようど晝食。午後お
た中秋の明月紙を黒防ぎに
て先生に見ていただいた。皆やめても一人で根氣を出して續
けはなかなか成功しなは。最後に高田先生に書いていただいた
いに紙ばさみにしまつてさよならした。時間のたつのが早い

九月十一日 木曜日 晴

今日はいつもより早く月空とお目にかかつた。お洗濯をし
た。小さい袋を持って、実居寺方面に向かつた。町を
はづれち
まふとくばらばら森先生と私とある三人あぜ
いた稲子に夢中。蛙やばつたに何とかなたまま
ら大 聲あげて愉快にとびまわつた。



家のことを思ひださせる。途中に今まで
ないやうなほうづきがすずなりににれが
にお食事までには袋いっぱい取つて嬉しくて仕方ない。お餅
は中洲で景色のすてきによい場所をねらひ高田先生にくうつ
いて行つた。即ちもはいつてゐるやうな南仏御飯をばつたの落

ないやうにしていた。午後今朝の奥さとするつきり返

對だつた。夜月かとてもきれいだつた。美しかつた。澄んだバ

お食事かすんで少したつて、宮地先生の後について、東太夫

へ路茶を取りに行つた。皆休まず不元氣だもん行つた。

稲子、今頃飛びまわつてふみやうに稲が迎へて來

れた。いよつて無事とさ着た。それから疊の上でこ

ろりと良い氣物だつた。午後晝寝してからお洗濯をした

九月二十二日 土曜日 曇

今日は朝から五六年は五斗女のはが全部一生懸命に食糧

増産だ。私達は午前中生まれて始めてのこえ果びを喜

んで運んだので知らないうちに道で少し軽くなつてくれ

やうに午後すつかりきれいなちにして、自動買で種ま

きをした。とても楽しいものだ。私達でこんな出来るとは、

いい事だ。楽しい事だ。立派にすまして、それから學藝會

のよう練習をした。

[illegible]

工	字	圖	火	國	數	算	數	算	工	除	休
理	語	謂	國	算	理	樂	古	史	國		
理	國	說	算	理	理	理	國	算	算		
工	國	理	國	理	理	理	理	理	理		
數	算	工	國	理	理	理	理	理	理		
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日		
5	4	3	2	1							